

国語科学習指導案

日 時 令和4年5月27日（金）公開授業Ⅱ

学 級 岩手大学教育学部附属中学校

2年B組34名

会 場 集会室

授業者 鈴木 駿

1 単元名

賢治と未明 ～次代に渡す文学のバトン～

2 単元について

(1) 学習者観

学習者の約70パーセントが「文学作品を読むことが好きだ」と回答している。その一方で「自分なりの文学作品の味わい方がある」という問いに対して「はい」と答えたのは全体の約半数にとどまった。昨年度学習者は文学の授業において自分達で作品を読み深める学習課題を設定し、その課題の解決に向けて議論するという学習を行なっている。様々な視点で作品に対する課題や疑問を見出す力は身につけているが、その一方で課題や疑問を解決する見方・考え方を働かせる読みの方略をメタ認知できていないことが予想される。今回は宮沢賢治作品と小川未明作品を比較しながらそれぞれの作家の魅力に迫っていく。魅力と一言で表現しても、その側面は無数に存在している。学習者自らが読みを深める見方・考え方を意識的に発揮し、作品に迫る力を身につけさせたい。また、集団の特性としては内向的で、内輪での盛り上がりはあっても、校外との関わりについては避ける傾向がある。本単元では上越教育大学附属中学校3年生とのオンライン交流授業を行う。「相手校との交流が楽しみか」という事前アンケートに対して肯定的回答をした学習者は約6割にとどまり（上越教育大学附属中の肯定的回答約8割）、さらに異年齢交流についても肯定的回答は約6割となっている（上越約8割）。社会生活を送る上で他者とコミュニケーションを取りながら協働する力は必須となってくるため、本単元での学習経験を経て、多様な価値観をもつ他者との関わりを積極的にもとうとする学習者の育成を図りたい。

(2) 学習材観

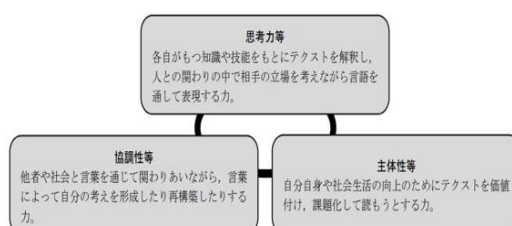
中心学習材 『なめとこ山の熊』 宮沢賢治 『野ばら』 小川未明

補助学習材 『やまなし』『オツベルと象』他 宮沢賢治 『眠い町』『金の輪』他 小川未明

宮沢賢治は岩手を代表する童話作家である。その作品には賢治の思想が十分に込められている。自身が傾倒していった法華経の思想や、社会へのアンチテーゼなどを上手く作品世界に落とし込み、読者を賢治独特の世界へと誘う。対して小川未明は新潟県出身の童話作家であり、「日本のアンデルセン」として名高い存在である。未明は人間の在り方について読者に訴えかけ続けた。人間の死や欲望など、暗い表現が目立ちながらもそこには明確なテーマがあり、人間、自然、社会への主張が見え隠れするのである。この二人に共通する点は、「Well-being」の思想が根本にある点である。賢治の理想とする世界が「イーハトーヴ」として作品に表れているのであるならば、未明の求めたものは相互扶助の世界である。コロナや戦争など、急速に変化していくこの時代にあって、二人の作品を改めて読むことで、自己の生き方を再考するきっかけになり得るだろうと考えた。『なめとこ山の熊』は主人公である猟師小十郎となめとこ山に住む熊たちとの物語である。両者は殺し、殺される間柄にあって、互いに好意をもっているという矛盾かつ悲劇的な関係性をもっている。小十郎が「仕方なく」熊を殺し、その胆を売って生計を立てているならば、小十郎を殺してしまった熊とその仲間たちは三日三晩小十郎の亡骸に祈りを捧げるのである。賢治の求める「ほんとうのさいわい」とは何かを考えさせられる作品である。また、胆を売りにいく場面では、荒物屋の主人と小十郎のやりとりが描かれているが、富裕層が貧困層の足元を見てその品を買い叩く構図が描かれている。これは『オツベルと象』に見られるような貨幣経済への賢治の嫌悪感が見て取れる。作品の主題に迫ることで賢治の思想に触れることができる作品である。

(3) 教科研究との関わり

本校国語科では育成を目指す思考力等・協調性等・主体性等を右図のように整理している。その育成のためにどのように指導を展開していくかを以下に示す。



① 主体的・対話的で深い学び

国語科における主体的・対話的で深い学びとは、自己との対話・他者との対話・テキストとの対話が考えられる。本単元では、賢治と未明、作品の魅力やメッセージ、文学がもつ力や価値を学習者が発見し、それを発信するためにプレゼンテーションを行う。言葉を頼りに自分の読みを形成していく中で、言葉による見方・考え方が働くような読みの方略を身につけさせながら学習者自身が自分でその方略を選択し、活用させることで作品の本質に迫らせた。また、今回は学級の仲間と読みを深めていくだけでなく、上越教育大学附属中学校とのオンライン授業によって交流を図りながら読み深め、単元の終わりには協働してプレゼンテーションを行なっていくことにしている。加えて上越教育大学附属中学校の学習者は3年生である。これまでは同じ教室で同じように学んでいた相手に自分の学習の成果を発表することが多かったが、学習経験やこれまで学んできた環境、年齢などが全く異なる相手と学習をすることは、学習者にとって新鮮かつ貴重な経験になるだろうと考える。

② 情報・情報技術の効果的な活用

ICTの発達によって社会では「オンライン〇〇」なるものが盛んになっている。また、リモートワークに代表されるようにその場におらずとも仕事や交流ができる環境が整ってきた。学校も例に漏れず一人一台端末が整備され、オンライン授業など、学習者の学びの環境はこれまでとは全く違うものになっている。今回の単元では離れた他者同士をオンラインで繋ぎ、協働させながら学習を進めていく。オンラインミーティング用アプリを活用しながらリアルタイムで授業を行い、意見の共有はデジタルホワイトボードを活用して、一枚のホワイトボードに自分の意見を書き込み、それをグループでの話し合いに活用する。また他のグループがそのボードを閲覧することで、意見の共有が容易になる。また、共同編集可能なプレゼンテーションソフトを活用してプレゼンテーションスライドを作成していく。他者との協働は、協調性等を育成するためには有効な手立てとなるのではないかと考える。相手との関わりの中でメタ認知を行い、自己調整をしながら学び方やコミュニケーションスキルを獲得していくことができることもオンライン交流のメリットである。加えて、他校の生徒との差異を実際に感じることで、教師自身が日頃の指導を振り返るきっかけにもなる。

3 単元計画

(1) 単元の目標

【知識及び技能】

- ・ 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。((2)ア)

【思考力、判断力、表現力等】

- ・ 登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(C(1)イ)

【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

(2) 本単元における言語活動

宮沢賢治の魅力伝えるプレゼンテーションを作成しながら、賢治の思想に触れたり、文学の価値について自分なりの解釈をする。

(関連：【思考力・判断力・表現力等(2)イ】)

(3) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	① 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している(C(1)イ)	① 文学作品を読んで理解したことをもとに、相手と議論しながら自分の考えを深め、粘り強く作品を読もうとしている。

(4) 指導の計画

次	時	学習活動	評価の観点			【評価方法】
			知技	態度	態度	
一	1	(1) 単元の見通しをもつ。 (2) 単元を貫く問いである「文学のもつ力とは何か」について考える。 (3) 賢治と未明の魅力伝えるプレゼ				本時は、C(1)ウに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。

		ンテーションとはどういうものか、考 える。			
二	2	(1) 賢治と未明の共通点・相違点につ いて議論する。		①	(学習課題)「賢治と未明が作品 を通じて伝えたかったことは何 か?」について、日常生活の中か ら話題を決め、その構成を主体的 に考えている。 【学習シート】
	3	(1) 『なめとこ山の熊』を読み、登場人 物の言動や心情について議論する。		①	(学習課題)「なぜ小十郎の顔は笑 っているように見えたのか?」に ついて、交流を通して考えを深め ている。【学習シート】
	4 (本 時)	(1) 『なめとこ山の熊』を読み、作品の 主題や賢治作品の世界観について議 論する。		①	(学習課題)「賢治がこの作品で主 張したかったことは何か?」につ いて、交流を通して考えを深めて いる。【学習シート】
以上実践までを岩手主導で行い、以下は上越主導で行う。					
二	5	(1) 小川未明についての講演会を聴く。 上越教育大学 小笠教授 岩手大学 岡田教授			
	6	(2) 『野ばら』を読み、未明の主張とは 何かを議論する。		①	
以下実践は岩手・上越共同で行う。					
三	7	(1) 賢治と未明の魅力を伝えるプレゼ ンテーションを共同で作成する。	①		(学習課題)「発表会をしよう」に ついて、自分の伝えたいことを相 手の反応を踏まえて発表しようと している。【パフォーマンス】
	8	(1) それぞれのグループで作成したプ レゼンテーションを発表し合う。		①	

4 本時について

(1) 指導目標

『なめとこ山の熊』を読ませ、賢治が読者に伝えたかったことについて考えさせながら、内容を解釈させる。

(2) 評価規準

【思考・判断・表現】

① 登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C (1) イ)

(3) 授業構想

導入において、前時の学習を振り返るとともに、事前読書の段階で学習者から出てきた問いを共有し、本時の学習への課題意識と必要感をもたせたい。展開ではまず学習課題に対する自分の考えを交流する。デジタルホワイトボードはグループごとに設け、グループの人がどのような考えをもっているのかを自分の活動と並行させながら把握させる。グループワークでは議論しながら、自分たちの考えを深めさせる。その際、議論に上がったことをデジタルホワイトボードに加筆修正させ、自分たちの考えを深めさせたい。また、グループワークの途中では「読み深めカード」を用いて学習者の思考を整理していく。グループワークで出ていない見方・考え方を提示することで作品をより深く読ませることを意識させる。その後、グループで話し合ったことを全体で共有する。デジタルホワイトボードは他のグループのものも見るができるため、順番にグループでの話し合いを報告させるのではなく、教師のコーディネートや生徒の発話から進めていく。終結では話し合ったことを踏まえ、課題に対する自分の考えをまとめさせる。その後、次時の学習内容を確認し、課題意識をもたせる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される学習者の反応等	■指導上の留意点および評価 ・指導上の留意点 ○評価
導入 5	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 (1)「なめとこ山の熊のことならおもしろい。」という記述から、果たして『なめとこ山の熊』の話は何が面白いのか、問いを持たせつつ、本時の目標が作品の主題に迫ることであることを確認する。 学習課題 賢治が『なめとこ山の熊』で伝えなかったことは何か？	・これまでの学習を振り返り、本時の学習への課題意識を持たせる。
展開 35	3. 自分の考えをもつ。 【学習活動3・4・5において 予想される学習者の考え】 ☆生命について主張したかったのではないか。殺し、殺される関係だった両者が「おれはたまえを憎くて殺したのではない」「なめとこ山あたりの熊は小十郎をすきなのだ」と表現されていることから、互いを思いやりつつも命のやりとりをせざるを得ない悲劇的な因果を描いたと考えた。 ☆自死した熊と小十郎のやりとりから、自分の命の儚さについて訴えかけたかったのではないか。 ☆資本主義への皮肉を描いたのではないか。嫌々ながらも熊の胆を町へ売りに行く時の惨めな小十郎を描くことで、資本主義社会への嫌悪感を描いた。これは「オツベルと象」でも描かれていた。 ☆故人への思いや母子の愛を伝えなかったのではないか。小十郎が熊の言葉を理解した後に会った母子の熊のやりとりは、小十郎が亡くした妻と息子を思い出させた。 4. グループで議論する。 (1) グループの人の考えを共有しながら、議論する。 (2)「読み深めカード」を活用し、働かせる見方・考え方を意識しながら読み深める。 ①語り手の思いは？ ②「 」アリとナシから考える ③天候や風景から考える ④対比して考える（熊と小十郎） ⑤対比して考える（熊と荒物屋） ⑥言葉の選び方から考える 【学習活動4（2）において 予想される学習者の気付き】 ①語り手の一人称が「私」と「僕」で使い分けられている。 ②「もう熊に生まれるんじゃないぞ」と、小十郎はなぜ言うのか？ ③最後の場面における風景が意味しているものは何か？ ④小十郎は熊を殺す側で、熊は殺される側。山では小十郎が強い。 ⑤小十郎は搾取される側で荒物屋は搾取する側。町では小十郎が弱い。 ⑥賢治独特の表現があるか？ 5. 全体で議論する。 【学習活動5において 揺さぶりを与える問い】 ☆語り手はどのように語っているのか？ ☆熊と小十郎のやりとりでどんなことが話されているか？ ☆この場面は必要か？必要であればどんな役割を果たしているのか？	・自分の考えをホワイトボードに提出する。 ・グループごとにシートを用意し、自分のグループのメンバーがどのような考えをもっているのかわかるようにする。 ・根拠のない議論にしないために、自分がどの見方・考え方を働かせたのかを明確にさせる。 ・グループごとにミーティングルームを用意する。 ・話し合った内容について、ジャムボードに加筆修正をさせる。 ・議論が停滞したり収束しなかったりする場合に、教師がコーディネートする。 ・他グループのジャムボードを見て、気になったところや質問したいところを挙げさせ、自分たちで議論ができるようコーディネートする。
終 結 10	6. 学習課題について自分の考えをまとめる。 7. 今後の学習の見通しをもつ。	思○ 登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。【学習シート】

5 参考文献

- 小埜裕二 (2021) 『文学の体験 小川未明と宮沢賢治』永田印刷
 犬飼龍馬 (2019) 『教育科学国語教室 12月号』明治図書
 岩手大学人文社会科学部宮沢賢治いわて学センター (2021) 『賢治学+』杜陵高速印刷